

## プノンペンの平日（5） ～カンボジア法整備支援の日常～

JICA長期派遣専門家

内山 淳

### 【目次】

- 1 平日の朝
- 2 平日の午前
- 3 平日の昼休み（以上，2017年12月号）
- 4 平日の午後
- 5 平日の夜（以上，2018年3月号）
- 6 平日の特別行事
  - (1) プノンペンにて（以上，2018年6月号）
  - (2) プノンペンを離れて（以上，2018年9月号）
- 7 番外編「プノンペンの休日」（以上，本号）

前回までは、様々な「平日」をお伝えしました。今回は、「休日」の様子です。オフィスでの仕事は、日本と似ているところも多いですが、オフィスを一歩出ると、そこは異国の日常です。異文化での生活には、驚き、喜び、苛立ちが欠かせませんが、これも法整備支援の日常です。品位を損なわない限度で、私の休日をご紹介します。

### 7 番外編「プノンペンの休日」

#### 運動する

カンボジアに住み始めて痛感するのは、運動不足です。

決して日本で健康的な生活をしていただけではありませんが、日本での仕事を思い返してみると、意外と歩く機会が多いことに気がきました。通勤の往復、広い庁舎内の移動など、1回当たりの移動距離は大したことないですが、「塵も積もれば」何とやらです。しかし、カンボジアでは、歩道が整備されていない上、移動には車やトゥクトゥクを使います。しかも、私の通勤は片道わずか5分ですし、オフィス内で歩き回る用務もありません。そのため、圧倒的に歩く機会が少なく、「塵が積もらない」のです。

そんな運動不足を解消すべく、休日には、体を動かしています。日本では、我が子と土日に公園で遊ぶ程度の運動量でしたが、カンボジアでは、学校のグラウンドでソフトボールやタッチラグビーをしたり、ホテルのプールで泳いだりしています。毎日というわけにはいきませんが、せめて毎週末くらいは、スポーツで汗を流そうと試みています。汗だけでなく、「穢れ」も流れ出ているようで、身も心も清らかになっている気がします。



【タッチラグビーでボールと戯れる】

### 飲食する

運動した後は、のどを潤すことになるわけですが、カンボジアでアルコール飲料と言えば、ビールが主流です。人気銘柄は、「アンコール」「カンボジア」といった割とベタなネーミングです。日本のビールと比べると、味が薄いかもしれませんが、一年中暑いカンボジアでは、これくらいがちょうどいい気がします。中ジョッキ1杯で1～2ドル。ハッピー・アワーと称するお得な時間帯を設定しているお店では、3000リエル（75セント）と格安です。

ちなみに、ちょっと深酒した翌朝は、ココナッツ・ジュースがオススメです。通勤途中に、路肩の売り子さんから手軽に買えます。新鮮で大きなココナッツをその場で割ってもらい、ストローを挿せば出来上がり。こちらは、ハッピー・アワーがありませんが、いつでも3000リエル（75セント）とやはり格安です。



【ココナッツ・ジュースの売り子さん】

さて、のどを潤したら、お腹を満たしたくなります。カンボジアで有名な食材と言えば、ドリアン（カンポット州）、コーヒー（モンドルキリ州）、カニ（ケップ州）、胡椒（カンポット州）などです。

ドリアンと言えば、あの独特な芳香（異臭？）で有名ですが、私がカンボジアに来てから好きになった食べ物の1つです。

ドリアンが臭いという話をすると、日本に詳しいカンボジア人は、納豆の方が臭いと反論してきます。この「ドリアン」VS「納豆」論争は、いまだ定説がないところですが、私は、「どちらも臭いが、美味しい」説を主張しています。



【果物店で山積みのドリアン】

ところで、クメール（カンボジア）料理と言うと、どんな食べ物を連想するでしょうか？ 東の隣国ベトナムなら「フォー」、西の隣国タイなら「トムヤムクン」などが有名ですが、クメール料理は、いまいち知名度が高くありません。しかし、知名度と味は、無関係です。

例えば、「ノンバンチョック」（野菜などを乗せた米麺に魚のスープをかけたもの）、「アモック」（白身魚をカレーペーストやココナッツミルクと一緒にバナナの葉で包んで蒸したもの）などは、誰にでも愛される味で、カンボジアの代表的な一品です。個人的には、スープもオススメです。味のバラエティーが豊富で、酸っぱくて少し甘いスープなどもあり、次第に病み付きになります。

東南アジア各国の料理といえば、「辛い」というイメージがあるかもしれませんが、クメール料理は、基本的に辛くありません。ただし、味は比較的濃いめです。そのためなのか、私が見る限り、白飯が食事の主役で、味の濃いおかずは白飯をたくさん食べるためのサポーターという「力関係」があるように感じます。私も、その力関係に抗えず、白飯の魅力に惹かれて、つつい箸が進み、結局、食べ過ぎてしまいます。カンボジアで「糖質制限ダイエット」を実践するのは、なかなか難しそうです。

白飯を片手にクメール料理を眺めてみると、食材としては、川魚、鶏、野菜が多いように見えます。もっとも、ここは異国。日本ではなかなかお目にかかれない食材にも出会います。例えば、「亀」、「蛙」、「蟻」、「蛇」…どれも味は決して悪くないのですが、漢字で書くと、何だか食欲がなくなるのは気のせいでしょうか。



【レストラン版ノンバンチョック】

### 切る

短期の出張ではなく、長期の赴任となると、髪を切りたくなる時期が来ます。ですから、休日には美容室でサッパリして、イメージチェンジです。

首都プノンペンには、日系の美容室がいくつかあるので、数十ドルで、日本にいるときと同じ髪型になれます。他にも、街中を歩くと、道端に、数ドルで髪を切ってくれる「青空理髪店」があります。圧倒的な安さですが、私は、まだ利用する勇気がありません。

ちなみに、プノンペンには、日系の大型ショッピングモールが2店舗あるので、様々な日用品を手軽に入手できるのですが、髪に関して言えば、ヘアケア商品（ヘアトニックや育毛剤など）をあまり見かけません。私も「不惑」を越えて早数年。日射しが強く、汗をかきやすいこの国にいますと、どうしても頭髪を労わりたくなります。日本の皆様、この分野はビジネスチャンスです！？

### 教える

毎週土曜日の午前中には、日本人補習授業校<sup>1</sup>(通称「補習校」)で、中学生に数学と社会をボランティアで教えています。

首都プノンペンには、日本から教員が派遣されている日本人学校もあります。しかし、インターナショナル・スクールに通っているお子さんや、御両親のどちらかがカンボジア国籍というお子さんもいますので、週末などに日本語で教育を受ける機会がほしいという要望があります。社会科の授業風に言えば、生徒の「需要」は多いわけです。しかし、補習校の教師はボランティアのみですので、常に人材募集中で、教師の「供給」には苦労しています。そんな事情もあって、私は補習校に関わるようになりました。

補習校の授業では、日本の教科書などを使いますので、金曜の夜になると、数学の教科書とにらめっこして、翌日の授業のイメージ作りをしています。

当日は、補習校までは車で片道約30分かかり、朝8時から職員会議がありますので、この「方程式」を解くと、「土曜の朝は平日よりも早起きが必要」という答えになります。

<sup>1</sup> ホームページ：<http://www.jacam.cc/ppjs/>、フェイスブック：<https://ja-jp.facebook.com/ppjskh/>

そのため、金曜の夜は、「禁・残業」「禁・飲み会」「禁・夜更し」です。

補習校のおかげで、とても知的で健康的な週末を送っています。

## 乗る

休日に限りませんが、プノンペンの街中を移動するときには、トゥクトゥクに乗ることがあります。風を感じながら移動できるので心地よいのですが、朝夕は、通勤の車やバイクが多いため、排気ガスとの闘いが必要です。

トゥクトゥクに乗るためには、事前に目的地を伝えて、運転手さんと値段交渉をします。相場としては、近い所までなら、2～3ドル、ちょっと距離があっても4～5ドル程度です。人数が増えると、燃費が悪くなるからなのか、若干、割増運賃になる傾向です。

そして、この運転手さんとの交渉は、クメール語を座学中心で学んだ身にとって、貴重な実地訓練(?)の場になります。

私 「こんにちは、〇〇まで行ってください。」(にこやかに)

運転手「どこ？」

私 「△△の近くですよ。」(土地勘がある人のように)

運転手「あー、分かった。じゃあ、4ドル。」

私 「高いよー。普通なら2ドルでしょ？」(大げさに)

運転手「じゃあ、3ドルでどう？」

私 「2ドル半！」(懇願しながら)

運転手「いや、3ドル。」

私 「ん～、高いな…やめておくよ。バイバイ。」(残念そうに)

と言って、立ち去るふり(!)をすると、

運転手「分かった、分かった。2ドル半でいいよ。乗って。」

私 「ありがとう！」(満面の笑顔で)

こんな具合で、無事、実地訓練を修了。

でも、油断はできません。運転手さんは、「あー、分かった。」と言ったのにいきなり違う方向に発進し出すこともしばしば。「あっちの方向に行って。」「そこを右に曲がって。」などと言いながら、引き続き、クメール語の実地訓練が続きます。

そんなトゥクトゥクですが、最近では、試練が訪れているようです。運転手さんからは、客離れの愚痴をよく聞きます。ここ1年くらいのことですが、「Rickshaw (リキショー、リキシャ)」<sup>2</sup>と呼ばれる小型の乗り物が席卷しているからです。

これに乗るためには、スマートフォンのアプリを使う必要がありますが、自分のいる場所まで来てくれますので、トゥクトゥクを探し回る必要はありません。また、目的地を入力できるので、行き先をクメール語で説明する必要もありません。さらに、距離などに応

<sup>2</sup> 日本の「人力車」が語源。インドを始めとするアジア諸国で利用されている乗り物。前掲写真「ココナッツ・ジュースの売り子さん」の左上方に小さく写っている。詳しくは、[https://en.wikipedia.org/wiki/Auto\\_rickshaw](https://en.wikipedia.org/wiki/Auto_rickshaw)等を参照。

じて値段が自動的に計算され、降りる時にスマートフォンの画面に料金が表示されますので、事前に価格交渉をする必要もありません。そして何よりも、値段がトゥクトゥクの半額くらいと格安なのです。ですから、クメール語や料金相場を知らない外国人旅行者にはメリットが大きいので、あつという間に広まりました。

そんな逆風の中でも、常連のトゥクトゥクの運転手さんの「サン」は、妻と幼い2人の子供のため、毎日、王宮の前で見学を終えた観光客に声を掛けて、お客さんの確保に奔走しています。節約のため、昼ご飯は手作りのシンプルな弁当で、安全運転のため、お酒は飲みません。そんな姿を見ていると、ついついスマートフォンのアプリを起動させる指も躊躇して、できるだけ「サン」のトゥクトゥクを利用したくなってしまいます。



【常連のトゥクトゥクの運転手「サン」】

### 過ごす

プノンペンでの休日をゆったりと過ごすには、カフェが最適です。旧宗主国がフランスであったことが影響しているのか、街中にはコーヒー・ショップが乱立しています。シアトルに本社がある世界的ブランド店もあれば、カンボジア発祥の人気店もあります。どの店も個性を出してそれぞれの違いを競っているようですが、どの店にも共通することがあります。

それは、「店内に長居していても、追い出されないこと」です。

空いてもいないグラスに何度も水を注ぎに来たり、汚れてもいないテーブルを何度も拭きに来たりする店員はいません。ボーっとするもよし、読書するもよし、人間観察するもよし。とにかく気兼ねなく、のんびりと過ごせます。



【丘陵地帯にあるコーヒー園】

もっとのんびりするため、プノンペンを離れて休日をゆったりと過ごすには、離島が最適です。

カンボジアは海岸線が比較的短いので、「海」のイメージがないかもしれませんが、シハヌークビル州、コッコン州などには魅力的な海のリゾート地があります。プライベートで行った離島（ロン島）の海は、想像をはるかに超えた美しさでした。カラー写真でお見せできないのが残念ですが、海水は、ミネラルウォーター並みの透明度です。

波に身を委ねて海面に浮んだまま目を開くと、透き通った青空しか見えません。そのまま目を閉じると、澄んだ水音しか聞こえません。「楽園」「至福」という言葉がぴったりです。もうプノンペンの平日には戻れそうにありません。



【ロン島の栈橋】

さて、今回は、私たちの「休日」をお伝えしましたが、いかがだったでしょうか？

まだまだお伝えしたいことがあるので、プノンペンの「三連休」と題して続編を検討したいところですが、紙幅と自主規制の都合上、割愛させていただきます。

法整備支援の現場は、必ずしも順風満帆とは限りません。ですから、「気分転換は、明日への活力！」「笑顔は、最高の栄養！」と大げさな言葉で自分自身に言い聞かせながら、充実した休日を過ごすようにしています。

約1年にわたり、様々な姿をさらしてしまいましたが、法整備支援の日常に興味を持っていただけとしたら、長期派遣専門家冥利に尽きます。

## おわりに

あと半年足らずで、私も日本に帰国し、おそらく検察の現場に戻ることになるでしょう。残念ですが、プノンペンともお別れです。

駄文『プノンペンの平日』を最後までお読みいただき、本当にありがとうございました。

名作『ローマの休日』のエンディングでは、各国を歴訪中の王女様は、ローマを去るときの記者会見で、どこの国が一番良かったですかと記者に尋ねられます。「いずれもそれ

ぞれ忘れ難く…」と用意されたとおりの答えを言い始めますが、突然、「ローマです！何と言ってもローマです！生涯忘れることはないでしょう。」<sup>3</sup>と力強く言い、叶わぬ恋の相手にしか分からない言い回しで、心の内に秘めた想いを伝えます。

私も、検事として各地を異動する中で、いずこもそれぞれ忘れ難いのですが、このカンボジアを生涯忘れることはないでしょう。

えっ？ 私の「叶わぬ恋の相手」ですか？

それは…。

もちろん「法整備支援」です！

(完)

---

<sup>3</sup> Rome! By all means Rome! I will cherish my visit here in memory, as long as I live.